

## 平成26年度実施事業

# 協働事業報告会

◆開催日 平成27年5月9日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

### 目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 協働事業報告書
  - ①応急手当の普及・啓発事業・・・・・・・・・・ P 2
  - ②外国籍市民支援放送事業・・・・・・・・・・ P 17
  - ③食品の放射性物質簡易検査・・・・・・・・・・ P 25
  - ④感覚統合療法普及事業・・・・・・・・・・ P 33
  - ⑤平塚市立小中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業・・・P42
  - ⑥市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業・・・・ P51

平成26年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成27年5月9日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	<b>協働事業報告会開会</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・協働事業審査会委員長あいさつ</li><li>・協働事業審査会委員紹介</li><li>・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）</li></ul>
14:10	<b>1. 平成26年度実施事業の報告（プレゼンテーション）</b> <p>※各事業ごとに報告発表（5分）、審査員からの助言等（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆行政提案型協働事業<ul style="list-style-type: none"><li>①応急手当の普及・啓発事業</li><li>②外国籍市民支援放送事業</li><li>③食品の放射性物質簡易検査</li><li>④感覚統合療法普及事業</li></ul></li><li>◆市民提案型協働事業<ul style="list-style-type: none"><li>①平塚市立小中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業</li><li>②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業</li></ul></li></ul> <b>2. 委員長総評</b>
15:45	<b>閉会予定</b>

## 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	ひらつか応急手当協力会	
団体代表者	小川 弘子	印
事業担当課名	消防救急課	
事業担当課長	浮田 弘	印

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	応急手当の普及・啓発事業		
事業開始年度	平成 24年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	316,000 円	内訳	市の支出 244,000 円 ----- 団体の支出等 72,000 円
事業の概要	毎月9日に開催する平塚市在住、在勤で一般の方が対象の普通救命講習会や事業所等からの依頼により開催される、普通救命講習会及び応急手当講習会に指導員として参加し、市民に対して広く応急手当の普及・啓発を図り、市民が安全に暮らせる安心な町づくりを目指しています。		
具体的な実施内容	<p>応急手当普及員の資格を有する会員が普通救命講習会、応急手当講習会及びイベント等に講師として参加し、受講者に対して、適切な心肺蘇生法やAEDの取扱いについて、指導することにより、救急車が来るまでの間、適切な救命処置が実施できる市民の増員を図っています。</p> <p>実施内容については、「平成26年度ひらつか応急手当協力会活動記録」のとおり。</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

## 26年度活動記録

No.	月	日	講習場所名	講習内容	受講者数	協力会参加人数	消防職員参加人数
1	4	2		役員会		3	
2	4	4	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
3	4	8	平塚市役所新採用職員	普通救命講習会	29	4	2
4	4	9	一般公募	普通救命講習会	14	6	2
5	4	10		役員会		3	
6	4	11	三興製鋼株式会社	普通救命講習会	20	4	2
7	4	11	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
8	4	16	特別養護老人ホーム ふじの郷	普通救命講習会	11	3	2
9	4	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	12		
10	4	18		総会・勉強会		4	
11	4	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	1		
12	4	22	キャノン(株)平塚事業所	普通救命講習会	33	3	3
13	4	23	湘南ステーションビル(株)平塚ラスカ	普通救命講習会	24		1
14	5	1	神奈川県立湘南養護学校	応急手当講習会	80	4	7
15	5	2	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
16	5	8	三菱ガス化学(株)平塚研究所	普通救命講習会	42	3	3
17	5	9	一般公募	普通救命講習会	17	4	1
18	5	11	平塚市剣道連盟	応急手当講習会	60	2	5
19	5	13	市職員	普通救命講習会	29	3	2
20	5	14	市職員	普通救命講習会	28	3	2
21	5	15	市職員	普通救命講習会	15	4	2
22	5	16	市職員	普通救命講習会	23	5	2
23	5	16	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	6		
24	5	17	湘南メディケアセンター	普通救命講習会	17	2	2
25	5	21	県立平塚商業高等学校	応急手当講習会	62	3	3
26	5	23	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	1		
27	5	23	神奈川平塚盲学校	応急手当講習会	77	4	5
28	5	25	吉沢地区体育振興会	普通救命講習会	23	4	1
29	5	25	平塚送迎ボランティアサークル	普通救命講習会	6	4	
30	5	27	神奈川県立平塚養護学校	応急手当講習会	40	5	3
31	5	27	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	14		
32	5	30	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
33	5	31	エクセレント平塚	普通救命講習会	13	2	2
34	6	2	神田交通株式会社	普通救命講習会	13	3	3
35	6	3	神田交通株式会社	普通救命講習会	15	2	2
36	6	4	教育委員会教育指導課	普通救命講習会	32	3	2
37	6	5	城島ふれあいの里	普通救命講習会	28	3	3
38	6	5	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
39	6	6	教育委員会教育指導課	普通救命講習会	26	3	3
40	6	7	県立平塚湘風高等学校PTA	普通救命講習会	19	3	3
41	6	9	一般公募	普通救命講習会	24	4	1
42	6	10	(株)関電工神奈川支社	普通救命講習会	33		4
43	6	11	平塚市子ども会育成連絡協議会	普通救命講習会	50	3	4
44	6	12	平塚市子ども会育成連絡協議会	普通救命講習会	39	2	3
45	6	13	平塚市子ども会育成連絡協議会	普通救命講習会	42	2	3

46	6	14	平塚市子ども会育成連絡協議会	普通救命講習会	36	3	3
47	6	17	神奈川県立湘風高等学校	応急手当講習会	80	3	4
48	6	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	10		
49	6	18	特別養護老人ホーム陽だまりの丘	普通救命講習会	12	1	2
50	6	20	平塚税務署	普通救命講習会	23	1	2
51	6	21	平塚ガーデンホームズ管理組合	応急手当講習会	20	4	2
52	6	23	湘南ステーションビル(株)平塚ラスカ	普通救命講習会	14		2
53	6	25	あゆみ保育園	応急手当講習会	8		2
54	6	27	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	18		
55	6	27	パーソナルサービスセンター	応急手当講習会	15		2
56	7	1	日産車体株式会社	普通救命講習会	30	2	2
57	7	8	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	29		
58	7	9	一般公募	普通救命講習会	16	4	2
59	7	10	勝原小学校ふれあい委員会	普通救命講習会	32	2	3
60	7	11	教育委員会教育総務課	応急手当講習会	44	2	2
62	7	11	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
64	7	12	サンシャイン平塚自治会	普通救命講習会	19	2	2
65	7	13	平塚市立南原公民館	普通救命講習会	51	3	3
66	7	14	田中貴金属(株)平塚技術開発センター	普通救命講習会	19	2	2
67	7	15	応急手当普及員再講習	応急手当普及員再講習	13		3
68	7	16	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	10		3
69	7	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	10		
70	7	17	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	10		3
71	7	18	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	10		3
72	7	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	2		
73	7	19	高村団地東自治会	応急手当講習会	30	4	2
74	7	20	神奈川県視覚障害者福祉会	応急手当講習会	20	1	2
75	7	22	湘南農業協同組合岡崎支所	普通救命講習会	17	2	3
76	7	23	平塚市社会福祉協議会	普通救命講習会	23	3	2
77	7	23	元麻布ギャラリー	応急手当講習会	30	1	
78	7	24	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	10		
79	7	25	平塚市社会福祉協議会	普通救命講習会	17	3	1
80	7	28	道和幼稚園	普通救命講習会	15	2	2
81	7	29	ライフビュー湘南平塚タワー	応急手当講習会	16	2	1
82	7	30	岡崎地区庁内福祉村おかざき鈴の里	普通救命講習会	22	3	2
83	7	31	神奈川県立平塚ろう学校	応急手当講習会	79	3	4
84	7	31	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	14		
85	8	1	教育委員会教育総務課	普通救命講習会	31	3	2
86	8	2	乳児、小児、新生児普通救命講習会	普通救命講習会	25	6	4
87	8	3	プチなでしこ	応急手当講習会	50	3	3
88	8	4	中学生対象普通救命講習会	普通救命講習会	9		2
89	8	5	中学生対象普通救命講習会	普通救命講習会	2		2
90	8	5	教育委員会教育総務課	普通救命講習会	48	4	3
91	8	6	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	11		
92	8	7	神奈川県厚生協会貴峯荘	普通救命講習会	31	3	2
93	8	8	県立平塚農業高等学校教員	応急手当講習会	30	3	2
94	8	8	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	7		
95	8	9	一般公募	普通救命講習会	17	4	1

96	8	13	湘南ステーションビル(株)平塚ラスカ	普通救命講習会	25		1
97	8	19	関西ペイント(株)平塚事業所	普通救命講習会	32	2	3
98	8	20	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
99	8	21	松が丘地区民生委員児童委員協議会	普通救命講習会	14	2	2
100	8	23	県立平塚商業高等学校(ブチひらつか)	応急手当講習会	15	4	2
101	8	24	県立平塚商業高等学校(ブチひらつか)	応急手当講習会	30	4	2
102	8	24	中原日枝神社神輿保存会	普通救命講習会	9	2	1
103	8	27	(株)リコーサービスパーツセンター	普通救命講習会	10		3
104	8	27	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
105	8	29	神奈川県立湘南養護学校	応急手当講習会	23	3	2
106	8	30	旭化成住宅(株)平塚事業所	普通救命講習会	14	2	2
107	9	2	平塚市立大野小学校	応急手当講習会	109	5	7
108	9	3	平塚市健康推進員連絡協議会	普通救命講習会	16	3	3
109	9	3	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
110	9	4	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	11		
111	9	5	日産車体株式会社	普通救命講習会	25		3
112	9	6	港スポーツクラブ	普通救命講習会	13	2	2
113	9	6	八幡公民館	応急手当講習会	30		1
114	9	7	救急フェア	応急手当講習会	225	6	7
115	9	8	(株)古河テクノマテリアル	普通救命講習会	25	1	2
116	9	8	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	9		
117	9	9	一般公募	普通救命講習会	24	4	2
118	9	10	日本シーカ株式会社	普通救命講習会	25	2	2
119	9	10	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	18		
120	9	11	ネットヨタ神奈川株式会社	応急手当講習会	33	3	2
121	9	13	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
122	9	14	早田自主防災会	普通救命講習会	12		3
123	9	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	14		
124	9	17	神奈川大学	応急手当講習会	100	6	
126	9	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
127	9	18	JA全農青果センター(株)神奈川センター	応急手当講習会	19	2	2
128	9	19	平塚市健康・こども部青少年課	普通救命講習会	10	1	1
129	9	19	神奈川県湘南地域県政総合センター	普通救命講習会	18		2
130	9	20	社会福祉法人湘南福祉センター	普通救命講習会	27	3	2
131	9	22	湘南桜ヶ丘幼稚園	応急手当講習会	40	3	2
132	9	24	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
133	9	26	巴機械サービス株式会社	応急手当講習会	40	3	2
134	9	26	平塚市立神明中学校	応急手当講習会	26	2	2
135	9	28	(株)足立機械製作所	普通救命講習会	21	2	2
136	10	2	平塚市花水台保育園	応急手当講習会	30	2	3
137	10	2	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
138	10	4	真土学童クラブ	応急手当講習会	22	2	2
139	10	5	介護老人福祉施設フィオーレ湘南真田	普通救命講習会	22	3	1
140	10	5	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
141	10	6	平塚市役所新採用職員	普通救命講習会	15		2
142	10	6	平塚ふじみ園	普通救命講習会	15	2	1
143	10	7	青少年課(学童クラブ指導員)	普通救命講習会	63	3	4
144	10	8	青少年課(学童クラブ指導員)	普通救命講習会	32	3	2

145	10	9	一般公募	普通救命講習会	23	4	1
146	10	9	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	13		
147	10	10	リンテック(株)平塚事業所	応急手当講習会	12		2
148	10	15	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	11		
149	10	16	県厚生協会貴峯荘	普通救命講習会	33	3	2
150	10	18	消防フェスティバル	応急手当講習会	200	6	3
151	10	21	災害対策課(防災コミュニティ)	普通救命講習会	3		2
152	10	22	高砂香料工業(株)研究開発本部	普通救命講習会	20	1	2
153	10	22	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
154	10	23	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
155	10	24	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	17		
156	10	24	日本年金機構平塚年金事務所	応急手当講習会	10	1	1
157	10	25	市民健康デー	応急手当講習会	50	4	2
158	10	25	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
159	10	28	平塚市立金田公民館	普通救命講習会	13	2	1
160	10	29	高砂香料工業(株)研究開発本部	普通救命講習会	19	2	2
161	10	29	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
162	10	30	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	6		
163	10	30	平塚市西部福社会館	普通救命講習会	17	1	1
164	10	31	平塚市立金田保育園	応急手当講習会	50	4	4
165	11	1	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
166	11	3	わかば健康倶楽部	普通救命講習会	15	1	1
167	11	3	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
168	11	4	神奈川県平塚保険事務所	応急手当講習会	40	3	2
169	11	5	(株)NTT東日本神奈川西支店	普通救命講習会	16	2	2
170	11	6	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	7		
171	11	7	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	16		
172	11	6	神奈川県立高浜高等学校	応急手当講習会	80	5	3
173	11	7	神奈川県立高浜高等学校	応急手当講習会	80	3	3
174	11	8	消防展	応急手当講習会	70	6	1
175	11	9	消防展	応急手当講習会	50	5	1
176	11	9	一般公募	普通救命講習会	15	4	1
177	11	10	湘南ステーションビル(株)平塚ラスカ	普通救命講習会	21		1
178	11	11	東日本旅客鉄道(株)平塚保線技術センター	応急手当講習会	31	1	2
179	11	11	湘南ビューティーカレッジ	普通救命講習会	15		2
180	11	11	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	21		
181	11	12	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	2		
182	11	12	(有)湘南フレンド平塚介護サービス	普通救命講習会	11	2	1
183	11	13	平塚市資源回収協同組合	応急手当講習会	20	1	1
184	11	13	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	10		
185	11	14	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	6		
186	11	14	シニアフォレスト湘南平塚	普通救命講習会	14		2
187	11	15	日産車体マニュファクチャリング(株)	普通救命講習会	22	1	2
188	11	15	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
189	11	16	サンシャイン平塚自治会	普通救命講習会	22	1	1
190	11	17	平塚ふじみ園	普通救命講習会	14	2	1
191	11	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
192	11	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	6		

193	11	18	平塚市立金目幼稚園	応急手当講習会	21	2	1
194	11	18	(株)ネツレンハイメック	応急手当講習会	20		2
195	11	19	サンロードあさひ商店会協同組合	普通救命講習会	14	2	1
196	11	20	平塚ふじみ園	普通救命講習会	11	2	1
197	11	20	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	13		
198	11	21	レモンガス株式会社	応急手当講習会	24	3	1
199	11	21	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	1		
200	11	22	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
201	11	22	日産車体マニファクチャリング(株)	普通救命講習会	20	2	2
202	11	22	平塚市立吉沢小学校(わくわくサタデー)	応急手当講習会	336		4
203	11	23	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
204	11	27	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	9		
205	11	28	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
206	11	29	社会福祉法人湘南福祉センター	普通救命講習会	29	3	2
207	11	30	下山下自治会	応急手当講習会	40	3	1
208	12	1	株式会社サーブ	普通救命講習会	14		2
209	12	2	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
210	12	3	極東鋼弦コンクリート振興(株)	普通救命講習会	13	1	3
211	12	4	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
212	12	5	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	4		
213	12	6	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
214	12	6	(株)へいあんヘルスケア事業部平塚営業所	普通救命講習会	28	4	2
215	12	7	錦町町内会自主防災会	応急手当講習会	30	2	1
216	12	7	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
217	12	8	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	2		
218	12	8	神奈中観光株式会社	普通救命講習会	28	2	1
219	12	8	平塚市市民部協働推進課	応急手当講習会	10	1	1
220	12	9	一般公募	普通救命講習会	24	3	1
221	12	9	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
222	12	10	(株)へいあんヘルスケア事業部平塚営業所	普通救命講習会	22		4
223	12	11	日産車体マニファクチャリング(株)	普通救命講習会	12		2
224	12	12	神奈川県立高浜高等学校	応急手当講習会	80	1	7
225	12	13	日産車体マニファクチャリング(株)	普通救命講習会	21	2	2
226	12	15	神奈川県立平塚農業高等学校	応急手当講習会	78	4	6
227	12	16	神奈川県立平塚農業高等学校	応急手当講習会	78	4	6
228	12	17	神奈川県立平塚農業高等学校	応急手当講習会	39	3	1
229	12	17	(株)ニチイ学館ニチイケアセンター平塚湘南	応急手当講習会	12		1
230	12	18	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
231	12	22	日産車体マニファクチャリング(株)	普通救命講習会	18		2
232	12	23	神奈中観光株式会社	普通救命講習会	27	1	2
233	12	25	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	12		
234	12	26	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	25		
235	1	9	一般公募	普通救命講習会	19	3	1
236	1	9	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
237	1	13	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	7		
238	1	17	平塚市消防団	普通救命講習会	32	2	2
239	1	17	平塚市消防団	普通救命講習会	21	2	2
240	1	18	平塚市消防団	普通救命講習会	38	2	2

241	1	18	平塚市消防団	普通救命講習会	17	2	2
242	1	18	日本赤十字	普通救命講習会	11	1	
243	1	20	平塚市立吉沢小学校(6年生)	応急手当講習会	100	5	8
244	1	23	神奈川県湘南地域県政総合センター	普通救命講習会	16	2	1
245	1	24	社会福祉法人富士白苑	普通救命講習会	18	2	2
246	1	25		役員会		3	
247	1	26	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	8		
248	1	27	神奈川県社会福祉専門学校	普通救命講習会	31	3	3
249	1	28	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
250	1	30	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	10		
251	2	3	応急手当普及員再講習	応急手当普及員再講習	11		3
252	2	4	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	12		3
253	2	5	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	12		3
254	2	5	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	5		
255	2	6	応急手当普及員講習	応急手当普及員講習	12		3
256	2	7	田村自治連合会(防災本部)	普通救命講習会	27	2	3
257	2	8	平塚市立中原公民館	普通救命講習会	20	2	1
258	2	9	一般公募	普通救命講習会	19	5	1
259	2	10	社会福祉法人カメラア会	普通救命講習会	34	3	4
260	2	11	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	2		
261	2	13	社会福祉法人至泉会ソーレ平塚	普通救命講習会	9		2
262	2	14	パークサイド平塚自治会	応急手当講習会	30	2	2
263	2	15	介護老人福祉施設フィオーレ湘南真田	普通救命講習会	17	1	2
264	2	16	社会福祉法人研水会高根台ホーム	普通救命講習会	30	3	4
265	2	17	社会福祉法人カメラア会	普通救命講習会	32	4	3
266	2	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	12		
267	2	18	社会福祉法人研水会高根台ホーム	普通救命講習会	21	3	2
268	2	19	社会福祉法人カメラア会	普通救命講習会	21	3	3
269	2	20	社会福祉法人研水会高根台ホーム	普通救命講習会	22	2	3
270	2	20	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	13		
271	2	21	富士見地区自主防災会連合会	普通救命講習会	38	2	2
272	2	23	古河電気工業(株)平塚事業所	普通救命講習会	21	1	2
273	2	24	高砂香料工業(株)研究開発本部	普通救命講習会	17	2	2
274	2	24	平塚商工会議所女性会	普通救命講習会	22	1	2
275	2	25	県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデン	普通救命講習会	27		4
276	2	25	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	11		
277	3	2	関西ペイント(株)平塚事業所	普通救命講習会	32		4
278	3	3	平塚市立大住中学校	応急手当講習会	64	2	4
279	3	4	介護付有料老人ホームサンガーデン湘南	普通救命講習会	13		2
280	3	5	平塚市立神田中学校	応急手当講習会	118	5	7
281	3	6	平塚市立春日野中学校	応急手当講習会	110	4	7
282	3	7	NPO法人湘南ダンベル体操協会	応急手当講習会	17	1	2
283	3	9	一般公募	普通救命講習会	19	4	1
284	3	10	平塚市立大住中学校	応急手当講習会	64	2	4
285	3	11	馬入ふれあい公園管理事務所	普通救命講習会	16		2
286	3	11	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	3		
287	3	15	平塚市消防団第8分団	普通救命講習会	32	3	2
288	3	15	ひらつな祭	応急手当講習会	50	4	4

289	3	17	公益財団法人神奈川県下水道公社	普通救命講習会	17	1	3
290	3	17	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	12		
291	3	18	三菱ガス化学(株)平塚研究所	普通救命講習会	37	1	3
292	3	18	(株)JTBコーポレートセールス神奈川西支店	応急手当講習会	43	3	1
293	3	19	八幡地区自治会連合会	普通救命講習会	20		3
294	3	20	(株)小松製作所湘南工場	普通救命講習会	29		3
295	3	20	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	36		
296	3	23	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	9		
297	3	24	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	9		
298	3	24	第一三共ケミカルファーマ(株)平塚工場	普通救命講習会	16		2
299	3	25	高砂香料工業(株)研究開発本部	普通救命講習会	16	1	2
300	3	26	平塚パワーズ	普通救命講習会	11	5	
301	3	26	(株)小松製作所湘南工場	普通救命講習会	31		4
302	3	26	マイスポーツクラブフェスティバル	応急手当講習会	100		1
303	3	26	横浜ゴム(株)平塚製造所	普通救命講習会	15		

ひらつか応急手当協力会参加講習会

普通救命講習会	112 回
応急手当講習会	57 回
役員会等	4 回
合計	173 回

ひらつか応急手当協力会参加人数

普通救命講習会	288 人
応急手当講習会	179 人
役員会等	13 人
合計	480 人

ひらつか応急手当協力会参加講習会受講者数

普通救命講習会	2,585 人
応急手当講習会	3,107 人
合計	5,692 人

## 平成26年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	245,000 円	244,000 円	-1,000 円	報償費 (交通費)、消耗品 (ユニホーム)
	団体の支出	72,000 円	72,000 円	0 円	講習会時の飲料費
	事業収入				
	収入合計	A 317,000 円	B 316,000 円	B-A -1,000 円	
② 支 出	報償費	240,000 円 (240,000)	240,000 円 (240,000)	0 円	交通費、講習会会場までの往復代
	消耗品費	5,000 円 ( 5,000)	4,000 円 ( 4,000)	-1,000 円	講習会用ナイロンベスト (ユニホーム)
	会員自己負担	72,000 円 ( )	72,000 円 ( )	0 円	講習会時の飲料費
		( )	( )		
		( )	( )		
		( )	( )		
		( )	( )		
	支出合計	C 317,000 円 ( 245,000)	D 316,000 円 ( 244,000)	D-C -1,000 円	
③	収支決算額 B316,000 円 - D316,000 円 = 0 円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	消防救急課	■団体 □行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	応急手当の必要性を広く市民に広めることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	消防救急課が受講者の受付をし、指導者については、双方で人員の調整を図り、それぞれが指導員として講習会に参加し、役割分担は適正であった。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	勉強会等で指導方法の統一を図るとともに、受講者に分かりやすい指導について協議した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	行政とともに、勉強会等の開催して、知識及び技術等の統一を図り、それを市民に伝えることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	双方で実施することにより、数多くの講習会に対応でき、数多くの受講者にたいし、応急手当の必要性を伝えることができた。また、受講者からの質問等を共有し、指導の統一を図れた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	多くの市民に対して応急手当の必要性を指導し、理解をしていただくことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	経費については、一回の講習会につき、交通費として500円が支給されているが不足している状況である。本来の技術、指導に対しての経費は出ていない。 しかし、それ以上に見合うサービスの提供は十分に行うことができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民である会員が指導することで、受講者から身近で、親しみやすく、質問もしやすい等の声を聞いた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	多くの市民に対して、応急手当の知識、技術を伝えることにより、市民が緊急時に対応ができる。
団体のメリット	行政が講習を開催することで、多くの講習会に指導員として参加でき、知識、技術の活用ができる。
市のメリット	講習会及び受講者が多数の場合でも対応でき、受講者にとって、身近で親しみやすい講習会となることで、受講者の増加が期待される。

## (4) その他、課題やその改善方法など

平日開催の講習会の依頼が多く、平日に参加できる会員が今のところ限られているため、人員調整に苦慮している。今後、会員の増員することにより、平日の講習会にも対応していきたい。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 ( )

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今後も講習会に指導者として参加し、取得した知識及び技術を活用して、応急手当の普及・啓発を図るとともに、講習会等で団体の活動を市民に広報し、団体での自主事業を増やしていく。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	消防救急課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	応急手当普及・啓発事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	平塚市民が安全で安心して暮らせる町づくりを目的に普通救命講習会、応急手当講習会及びイベント等の開催において、お互いに共有できた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	行政は講習会の受付をして、日程調整を行うとともにイベント等の企画・立案を行った。 団体は講習会に指導員として参加する会員の人員調整及び講習会での指導を行い、行政と団体の役割が明確であった。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	講習会を実施するにあたり、統一した指導方法及びより受講者に分かりやすい指導方法を協議した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	4	行政は団体の要望により、講習会での指導方法の統一や心肺蘇生法等の変更点などの勉強会を開催し、団体は行政の要望により、講習会に指導員として参加し、対等な立場で尊重して事業が実施できた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	双方で役割分担を適正に行い、互いにの立場を尊重し合うことで、受講者が多い講習会も開催でき、講習内容の変更時等も情報の共有が図れた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	平成26年度に開催された講習会に会員が多数参加し、市民に対して、適切な救命処置を指導することにより、応急手当普及・啓発を図れ、市民が安全で安心して暮らせる町づくりの目的を達成した。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	経費としては、講習会場までの交通費及び受講者と指導者を見分けるためのユニフォーム代で十分にサービスの提供ができた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 市民である会員が指導することで、受講者から身近で、親しみやすく、質問もしやすい等の声を聞いた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	講習会の要望が複数の場合や受講者が多数の場合も対応でき、より多くの市民が講習会を受講できるようになった。
団体のメリット	行政が講習申込みを行うことにより、団体の信頼性が確保でき、講習内容の改正等について、行政が指導することにより、団体のスキルアップすることができる。
市のメリット	団体が持つ専門的な知識、技術が活用でき、多数の講習会及び受講者に対応できるようになった。

## (4) その他、課題やその改善方法など

市民から講習会の申込みが増加及び重複した場合の指導者不足に対応するため、今後は、会員の増員を図る必要があるが、入会の条件として、一定の講習を受けなければならないことや人数が多くなることで、指導方法等の統一を図ることが困難となる。会員の増員については、団体と協議し、慎重に行う必要がある。

## (5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 ( 提案型    提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 (

休止または終了

団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

普通救命講習会は、3年毎の再講習が必要なため、今後も市民が継続して受講するよう開く広報するとともに、団体と共同して受講者の増加を図ります。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	ひらつか応急手当協力会	担当課名	消防救急課
事業名	応急手当普及・啓発事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

平塚市において、応急手当の講習会を開催し、多くの市民に指導することで、救命率を向上させ、市民が安全で安心して暮らせる町づくりを共有の目的とし、行政と団体がそれぞれの役割について、理解及び分担をして対等な立場で協働している。また、行政は多数の講習会の対応ができ、市民サービスの向上及び受講者の増加につながり、団体では講習会に参加することで知識、技術の活用ができるとともに、スキルアップにつながっている。

課題や問題点については、勉強会等の行政及び団体の意見交換する場を設け、その都度協議している。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

平塚市で行われる応急手当の講習会等にひらつか応急手当協力会の会員が指導者として参加し、市民に対して、適切な心肺蘇生法及びAEDの取扱いについて、指導を行うことにより、多くの受講者に対応できるため、より多くの市民が命の大切さや応急処置の必要性を理解することができるため、目標は達成している。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民としては、市民の要望により対応できるようになり、受講しやすい環境が整った。  
団体としては、習得した知識及び技術の活用ができるとともに、講習会に指導員として参加することでスキルアップにつながった。  
市としては、講習会の開催について、市民の要望に対して、より対応ができるようになり、市民サービスの向上につながった。  
以上のことから、市民・団体・市のメリットは十分である。

### (4) その他、課題やその改善方法など

講習会の申込みが多く、特に平日の開催では、会員の参加者も限られているため負担がかかっている。改善方法として、応急手当普及員講習で団体への参加を促し、団体会員の増加に努めている。また、会員が増加することで、指導技術の格差が生まれ、指導方法の統一を図るための勉強会等の開催がより必要となる。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型　■提案型以外）休止または終了  
行政が単独で実施団体が単独で実施  
その他（）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今後も行政と団体が協力して、より多くの講習会を開催し、救急隊が現場に到着するまでの間、適切な応急処置ができる市民を増やすことで、市民が安全で安心して暮らせる町づくりに努めていく。

## 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団 体 名 多文化共生ひらつか情報局

団体代表者 中野 恵子 印

事業担当課名 文化・交流課

事業担当課長 伊藤 良一 印

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	外国籍市民支援放送事業		
事業開始年度	平成25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	446,575 円	内 訳	市の支出 391,300 円 ----- 団体の支出等 55,275 円
事業の概要	<p>平塚市で暮らす外国籍市民等が多言語で情報提供を受けることにより安心・安全な生活環境を構築できるように、FM湘南ナパサで多言語放送をする。</p> <p>1 生活情報等 毎週火曜日 19時～20時（録音放送日あり） ポルトガル語、タガログ語、スペイン語、中国語、韓国語、英語、日本語を含む7言語</p> <p>2 緊急時 行政・FM湘南ナパサスタッフと協力し、速やかに多言語で情報発信する</p> <p>3 各種イベントの参加（1、2の活動の普及及び賛助会員の増加を目的）</p> <p>放送原稿作成（コーディネータ2人） 放送キャスター（8人） 放送原稿の翻訳（データ化）（6人）</p> <p>※協働事業をきっかけに、FM湘南ナパサから受託した防災インフォメーションを多言語で毎週月曜～金曜 17時40分から放送（団体独自事業）</p>		
具体的な実施内容	<p>毎週火曜日 多文化共生ひらつか情報局による7言語で放送（録音日あり）。年間参加者延べ445人</p> <p>平成26年4月 会員15人で協働事業開始、賛助会員募集活動</p> <p>平成26年5月25日 平塚市国際交流協会主催「ひらつか国際交流フェスティバル」にて、平塚市総合公園園内定期放送を2言語（中国語、ポルトガル語）で2回放送、団体のPR、アンケートの実施。参加者9人</p> <p>平成26年9月から 放送言語に英語が加わる</p> <p>平成26年10月26日 7言語による団体PR用ちらしを作成。第8回ワールドフェアにて配布、アンケートの実施。参加者4人</p> <p>平成26年12月14日 平塚市国際交流協会主催「みんなで楽しもう会」にて団体のPR、アンケートの実施。参加者4人</p> <p>【参考】 防災インフォメーション（1年間） 月曜日から金曜日まで、17時40分から5分間放送（5言語）</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

## 平成26年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	428,000	391,300	△36,700	外国籍市民支援放送事業負担金 (キャスター欠席による戻入)
	団体の支出	13,000	40,275	27,275	会費 1,000 円×15 人=15,000 円、前年度団体繰越金 16,984 円及び別事業の収入でFM湘南ナパサから報償金 108,000 円の内 8,291 円支出
	事業収入	15,000	15,000	0	賛助会費 1,000 円×28 人=28,000 円の内、15,000 円を支出
	収入合計	A 456,000	B 446,575	B-A △9,425	
② 支 出	コーディネータ費	100,800 (100,800)	98,000 (98,000)	△2,800	1,400 円×70 回/12 ケ月/2 人
	通訳 (キャスタ) 費	151,200 (151,200)	126,700 (126,700)	△24,500	700 円×181 回/12 ケ月/8 人
	原稿翻訳費	151,200 (151,200)	141,800 (141,800)	△9,400	700 円×198 回/12 ケ月/6 人+800 円×4 回/2 人
	消耗品費	24,800 (24,800)	25,980 (24,800)	1,180	伝票代、コピー用紙代、インク代、事務用ファイル代、USBメモリ
	交流会費	14,000 (0)	40,595 (0)	26,595	会議用お茶代、交流会費
	事務費	14,000 (0)	13,500 (0)	△500	事務局長への謝礼金 3,000 円×4 回/1 人
		( )	( )		
	支出合計	C 456,000 (428,000)	D 446,575 (391,300)	D-C △9,425 (△36,700)	
③	収支決算額 B 446,575 円 - D 446,575 円 = 0 円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	多文化共生ひらつか情報局	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	外国籍市民にとって有益な生活情報を継続して発信することができました。緊急時の対応について、条件付採択となり、平成27年度に取り組んでいきます。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	事業のPRについて、団体だけでなく行政も一緒に取り組みました。行政と協働することで団体の信用度が上がりました。また、行政が定期的に情報を提供し、団体は必要な情報を選別しながら放送原稿を作成したことで、必要とされる情報を提供することができました。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	通常放送時だけでなく、行政と定期的な打ち合わせや交流会を開催しました。仕事の都合等で団体メンバー全員が集まるのが難しかったです。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	随時意見交換するなど、互いの意見や要望を出し合い、円滑に事業を進めることができました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	行政が定期的に情報を提供し、団体は必要な情報を選別しながら放送原稿を作成したことで、必要とされる情報を提供することができました。FM湘南ナパサで「防災インフォメーション」という別番組も任されることになり、活動が広がりました。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	放送言語に英語が加わり、現在7言語で放送しています。放送に関わる人を増加させるのは厳しい状況ですが、緊急時の対応を検討する上でも、1言語につき複数の人が関わるような体制を作っていきたいと思います。緊急時の対応について災害発生時等の情報発信体制についてのマニュアルづくりが課題となっています。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	高い専門性にもかかわらず、ボランティアで活動を続け、質の高い情報を提供しています。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など聴取率は出すことができませんが、イベント等に出向いてはアンケートを実施したり、事業のPRをしたり、積極的に取り組んでいます。賛助会費が当所の予測より多く集まりました。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	外国籍市民等が正確に必要な情報を得ることで、地域住民にとっても安心・安全な生活環境が構築されます。
団体のメリット	団体としての信用度が高まり、警察など多方面から情報提供があり、必要な情報を発信することができました。また、新たな防災ラジオ番組に携わることになりました。賛助会員も増加しました。団体の組織化が確立し、円滑に運営できる体制ができました。
市のメリット	団体と行政との信頼関係が築かれ、情報共有や互いの役割の理解が進んだことで、緊急時の対応について検討することにより外国籍市民等が安心して暮らせるまちづくりが進められます。

## (4) その他、課題やその改善方法など

緊急時の対応について、災害発生時等の情報発信体制についてのマニュアルづくりは、行政とFM湘南ナパサと協議していきます。緊急放送原稿のデータ化に取り組みます。賛助会員の募集活動を継続し、放送に関わる人や協力者を増やしていきたい。協働事業終了後も独自で活動できるよう、自主財源を確保していきたい。

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型  提案型以外）
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

協働事業終了後を見据え、団体が活動できるよう自主財源を確保する取り組みを進めていきたい。緊急時の対応について、行政、FM湘南ナパサと協議していきたい。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	文化・交流課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	外国籍市民支援放送事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	4	団体と行政が双方で必要な事業であると認識し、継続して、外国籍市民が必要とする情報を発信していただきました。緊急時の対応について条件付採択となったことを受け止め平成27年度事業で改善していきたいと思えます。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	行政は定期的に団体に情報を提供し、市役所内においても各課から情報提供を呼びかけました。外国籍市民が集まる研修等で、行政側も事業のPRに取り組みました。団体側は通常放送時のコーディネータ、キャスター、翻訳者という役割を果たすだけでなく、代表、副代表、事務局長、会計など団体運営の役割も適切に分担し、円滑に運営できました。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	定期的に打ち合わせや交流会を開催し、団体と行政のコミュニケーションを活発にしました。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	互いに対等な事業パートナーとして尊重し、事業を実施しました。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	行政に集まる情報はすべて団体に提供しました。団体はその経験やノウハウにより外国籍市民に必要な情報を選別して放送原稿を作ることで、リスナーが必要とする情報が提供できたと思えます。団体は協働事業の実績のもと、新たな防災ラジオ番組に携わるようになりました。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	継続して、外国籍市民が必要とする情報を発信していただきました。課題であった英語が放送言語に加わり、現在7言語で放送しています。放送に関わる人を増やすことについては課題が残っています。緊急時の対応について条件付採択となったことから、平成27年度事業で盛り込みます。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	通訳、翻訳の経費について、神奈川県と比較すると当団体は低い経費で抑えられています。有償ではありますが、「ボランティア」であることを理解していただきながら、当事業に熱心に取り組んでいただきました。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由などラジオの聴取率が計測できないため、イベント等で当事業のアンケート調査を実施しています。賛助会費は、募集活動の成果で当初の見込みより多くの賛同を得ることができました。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	外国籍市民等が正確で必要な情報を得ることで、安心・安全な生活環境が構築されます。
団体のメリット	団体としての信用度が高まり、継続的かつ必要な情報を提供することができました。また、協働事業の実績のもと、新たな防災ラジオ番組に携わることになり、賛助会員が増加しました。
市のメリット	団体と行政との信頼関係が築かれ、情報共有や互いの役割の理解が進んだことで緊急時の対応が迅速にできるようになると思われます。多言語で情報発信することで外国籍市民等が安心して暮らせるまちづくりが進められます。

## (4) その他、課題やその改善方法など

<p>緊急時の対応について災害発生時等の情報発信体制についてのマニュアルづくりを進めます。 緊急放送原稿のデータ化を実施します。 さまざまな外国籍コミュニティと連携し、また、緊急時にマニュアルのとおり対応ができるよう、継続して事業を実施するよう団体に働きかけます。 そのために、協働事業終了後も団体が自主財源を確保するよう働きかけます。</p>
--

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )  休止または終了  
 行政が単独で実施  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

<p>緊急時の対応について、関係部署に意見を求めながら団体と定期的に協議していきたいと思っております。協働事業終了後を見据えて、団体の活動についてフォローしていきたい。</p>
--

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	多文化共生ひらつか情報局	担当課名	文化・交流課
事 業 名	外国籍市民支援放送事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

緊急時の対応について検討はしてきましたが、組織体制など具体的にまとめることができませんでした。平成27年度は条件付採択となったため、今後も十分に協議し、取り組んでいきます。

団体と行政の定期的な協議も2回程度しかできませんでした。次年度は開催方法を工夫していきたい。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

通常放送については継続して質の良い情報を発信することができました。

緊急時の対応について、平成27年度に具体的に活動していきます。

放送に関わる人を増やすことについて、1言語につき複数の人に関わるような体制づくりについて、今後も努力していきます。

聴取率を出すことができないため、継続してアンケート調査や事業のPR活動を実施していきます。

賛助会費の募集活動を続け、自主財源の確保に努めていきます。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

外国籍市民等が正確に必要な情報を得ることで、地域住民にとって安心・安全な生活環境が構築できるため、必要な事業だと再認識し、今後も継続して活動していきたい。  
協働事業の実績のもと、FM湘南ナパサと協力し、新たな事業を展開することができました。

### (4) その他、課題やその改善方法など

協働事業終了後を見据えながら、賛助会費の募集活動を続け、自主財源を確保して団体の基盤を強化していきたい。  
団体のPR活動を多方面で進めていきます。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了  
行政が単独で実施 団体が単独で実施  
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

## 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

		NPO 法人	
団体名	ひらつかエネルギーカフェ		
団体代表者	田中 良治	印	
事業担当課名	市民情報・相談課		
事業担当課長	野川 栄一	印	

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	食品の放射性物質簡易検査		
事業開始年度	平成25年～	提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	760,450 円	内訳	市の支出 705,150 円 ----- 団体の支出等 55,300 円
事業の概要	<p>消費者庁及び独立法人国民生活センターから放射性物質検査機器1台の貸与を受け、市民からの依頼により市民が消費する食品（お米、野菜等）の放射性物質簡易検査を実施。消費者である市民の、食に対する不安解消を図る。</p> <p>1日1回/週、4件/週、検査員1名で実施。</p> <p>年度初に市民向け啓発用パンフレット、チラシを市と共同で作成、イベント等で配付するなどの検査周知に努めた。</p>		
具体的な実施内容	<p>検査機器をNPO法人ひらつかエネルギーカフェ内に設置し日常管理、検査体制を整備している。平成26年4月から平成27年3月までに104件の検査を実施し、全件検出限界値未満であった。市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができている。市民の食品と放射能への不安解消および正しい理解を深め、広く知識の啓発や制度の周知を図るため、食品と放射能に関する市民向け講座を5月24日、6月28日に開催。市民活動団体との共催で、7月24日にはソーラーッキング体験を通じてエネルギー問題の関心を広める親子対象の講座、2月11日には福島大学特任准教授に、地域での放射能検査の取組と意義等、解説いただいた。市民の食品と放射能に関する意識の把握にも努め、9月29日実施の市民活動センターまつり来場者100名（任意）に対して「食品中の放射性物質等についてのアンケート」を実施、集計し、次年度事業への改善に繋げることとした。市民とのコミュニケーション強化を図るツールの一つとして、市民活動団体がフェイスブックを導入し運用を開始、活動状況をわかりやすく発信した。市農水産課を通じた市民農園利用者への呼び掛け、大磯町との連携から町民の検査品受入を実施し、検査品確保の拡大に努めた。</p>		

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

## 平成26年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	756,600	705,150	-51,450	①負担金 (団体への支払) 353,200②保守費 326,160③消耗品費 25,790
	団体の支出	67,760	55,300	-12,460	団体の会計から支出
	事業収入	0	0	0	
	収入合計	A 824,360	B 760,450	B-A -63,910	
② 支 出	検査機保守費	327,000 (327,000)	326,160 (326,160)	-840	定期点検 (年1回)
	検査事務用品等	30,000 ( 30,000)	25,790 (25,790)	-4,210	検査試料
	検査員謝金 (有償ボランティア)	129,600 (129,600)	83,200 (83,200)	-46,400	検査：800円×104件
	検査機設置費	270,000 ( 270,000)	270,000 (270,000)	0	設置費：22,500円×12月/年、検査用光熱水費、校正費用等を含む
	検査員交通費	17,760 ( 0)	14,760 ( 0)	-3,000	往復820円×18日=14,760円
	団体側広報費	50,000 ( 0)	40,540 ( 0)	-9,460	放射能講座講師謝礼等
		( )	( )		
	支出合計	C824,360 ( 756,600)	D760,450 ( 705,150)	D-C -63,910 -51,450	
③	収支決算額 B 760,450円 - D 760,450円 = 0円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	NPO 法人ひらつかエネルギーカフェ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	消費者の「食に対する信頼」を回復するために、①身近な地方自治体である市レベルで、②市民が消費する食品（お米、野菜等）について、③市民が安心して依頼できる、そのような検査体制を整えることに協力して努めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	受付、問合せ、結果の取扱い等については行政が行うことにより、また検査実務については専門的知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより、市民が利用しやすく信頼感のある情報提供を円滑に行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	検査にあわせて随時意見交換を行い、検査をより広く市民に利用してもらう方法等について検討した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	随時意見交換をするなど、お互いの要望意見を調整して円滑に事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	放射性物質検査機器は高額だが、市が国より借り受けることにより団体の負担は軽減された。また、市にはエネルギーの専門的知識を持つ担当がないが団体の専門的知識により実施できた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見



## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	市民情報・相談課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	食品の放射性物質簡易検査	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	市民の食品に対する不安と放射能への理解を検査や情報提供することにより共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	受付、問合せ、結果の取扱い対応については行政が行うことにより、市民が利用しやすい情報提供も円滑に行うことができた。検査については専門的知識を持ち、より市民目線に近い団体が行うことにより市民の安心感が生まれた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	定期的ではないが検査にあわせて随時意見交換を行い検査の拡大等について検討した。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	随時意見交換をするなど、お互いの要望意見を調整して円滑に事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	放射性物質検査機器は高額だが、市が国より借り受けることにより団体の負担は軽減された。また、市にはエネルギーの専門的知識を持つ担当がないが団体の専門的知識により実施できた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	「市民の食に対する不安を解消する」ことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	検査件数の拡大に努め、1件当たりの単価は昨年度に比べ1,000円程度安価になったが、検査への信頼と確実な検査件数の確保に今後とも努めたい。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など依頼者にアンケートをお願いした結果、満足であるとの回答が大半を占めた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	市民活動団体が検査を目の前で実施し、市民自身で結果の確認ができるので、安心を強く実感することができる。
団体のメリット	市民への省エネ・創エネ相談に加え、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼性の確保に繋がった。
市のメリット	検査結果が基準値を超えた自家栽培品1件により、県で同作物の流通品についての重点検査が実施され、流通食品の安全が確保された。

## (4) その他、課題やその改善方法など

放射能への関心を風化させないためにも、市民へ広く制度や知識を周知し、親子対象放射能教室の開催等、子供から大人までの未来に繋がる広報活動の充実を行政と団体間で検討し、市民農園等の定点検査等も含めた人脈作りや検査依頼件数の拡大を図りたい。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 (

休止または終了

団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されている。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられるが、いつまでで検査をやめるというのではなく、検査しなくても何の不安もなく生活できるようにするまでは続けるという計画で進めることが必要と考える。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	NPO 法人 ひらつかエネルギーカフェ	担当課名	市民情報・相談課
事 業 名	食品の放射性物質簡易検査		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果や課題、評価点など共感できている事項が多く、今年度も昨年度に引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めることができました。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

団体・行政、各々の評価を確認したところ「目的・目標の達成」も「費用対効果」、「受益者サービス」についての成果・課題も、評価点なども共感事項が多く、今年度も昨年度に引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めることができました。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

団体・行政、各々で確認したところ「市民・団体・市のメリット」について同様に考えており、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めていきたいと考えています。

### (4) その他、課題やその改善方法など

団体・行政、各々で確認したところ「その他、課題やその改善方法など」について同様に考えており、今後も引き続き団体・行政間でよく話し合いながら、事業を進めます。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了  
行政が単独で実施 団体が単独で実施  
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

放射性セシウムの半減期は30年であり、また魚介類等への放射能汚染の顕在化はむしろ今後が心配されている。最近になって北アメリカ大陸沿岸の海水からセシウム134が検出されたというニュースもあった。事故の終息、陸の除染の進行具合、漁の解禁時期など様々な要因が考えられるが、いつまでで検査をやめるというのではなく、検査しなくても何の不安もなく生活できるようになるまでは続けるというスタンスで進めることが必要と考える。

## 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団 体 名 ひろげよう子育て支援の会

団体代表者 田中 眞知子 印

事業担当課名 こども家庭課

事業担当課長 大野 勉 印

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	感覚統合療法普及事業																																																																																								
事業開始年度	平成 26年～			提案型	<input type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型協働事業																																																																																				
事業費	125,931円			内訳	市の支出 125,931円 ----- 団体の支出等 0円																																																																																				
事業の概要	<p>発達に課題をもつ子どもたちに有効なりハビリテーション療法としての感覚統合療法を普及するため、くれよん1階保育室に感覚統合遊具を整備し、親子でたのしく体験したり、児童発達支援事業所を利用する子どもたちが職員とともに来所し遊具を活用した。、職員の合同勉強会や研修会を通し、学びを深め、事業所でも感覚統合の知識や体験を活かしたプログラムを実施できるようサポートした。</p>																																																																																								
具体的な実施内容	<p>○児童発達支援事業所の体験利用 毎月、定期的に各事業所が感覚統合遊具を体験利用した。各月1-2回を会でサポートした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用回数(*)</td> <td>1(1)</td> <td>5(2)</td> <td>4(2)</td> <td>4(1)</td> <td>4</td> <td>5(2)</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4(1)</td> <td>36(9)</td> </tr> <tr> <td>利用事業所数</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>利用児数</td> <td>3</td> <td>29</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>28</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td>職員・保護者</td> <td>5</td> <td>29</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>179</td> </tr> </tbody> </table> <p>*うち子育て支援の会サポート回数 利用事業所数計は実事業所数。利用児人数、職員保護者数は、延べ人数。</p> <p>○事業所合同勉強会 児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所の職員が参加する勉強会を開催し、毎回各事業所での取り組みやグループワーク等で感覚統合に関する学びを共有し深めた。勉強会のプログラム作り、進行や助言を会のメンバーでおこなった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月/日</th> <th>6/10</th> <th>8/27</th> <th>10/28</th> <th>1/15</th> <th>2/17</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数</td> <td>31</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>中止</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>事業所数</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>9</td> <td></td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1/15開催予定していたが、インフルエンザ等で参加予定者が大幅に減り中止とした。</p>											月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	利用回数(*)	1(1)	5(2)	4(2)	4(1)	4	5(2)	3	2	4	4(1)	36(9)	利用事業所数	1	4	4	4	4	5	3	2	4	4	5	利用児数	3	29	17	14	16	28	9	11	21	21	169	職員・保護者	5	29	19	20	17	24	12	11	20	22	179	月/日	6/10	8/27	10/28	1/15	2/17	参加人数	31	22	26	中止	20	事業所数	9	8	9		9
月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計																																																																														
利用回数(*)	1(1)	5(2)	4(2)	4(1)	4	5(2)	3	2	4	4(1)	36(9)																																																																														
利用事業所数	1	4	4	4	4	5	3	2	4	4	5																																																																														
利用児数	3	29	17	14	16	28	9	11	21	21	169																																																																														
職員・保護者	5	29	19	20	17	24	12	11	20	22	179																																																																														
月/日	6/10	8/27	10/28	1/15	2/17																																																																																				
参加人数	31	22	26	中止	20																																																																																				
事業所数	9	8	9		9																																																																																				
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。																																																																																									

### ○親子であそぼう体験会

未就学児の親子を対象に、市内保育所や幼稚園に広報誌、遊具を使っておもいきり体を動かして遊ぶ会を開催した。きょうだいや父親の参加もあり、楽しく交流する親子の様子がみられた。

月/日	7/30	8/23	12/13
参加親子（組）	11	10	8
こども人数	16	13	11

### ○感覚統合研修会

講師を松本政悦氏（横浜市総合リハビリテーションセンター作業療法士）とする研修会を2回にわたり開催した。市内の保育所幼稚園職員、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス職員をはじめ、市外からの参加者もあり、感覚統合についての関心の高さがうかがえた。感覚統合について、体験、ワークも盛り込み、理解しやすい研修となった。

参加者数 10/7 52名 11/18 56名

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

## 平成26年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	200,000	125,931	-74,069	負担金、30,915円、謝金30,000円、備品購入費65,016円
	団体の支出	5,000	0	-5,000	あそぼう会は午前のみで開催で昼食は不要となった。
	事業収入				
	収入合計	A 205,000	B 125,931	B-A -79,069	
② 支 出	謝金 (講師)	30,000 (30,000)	30,000 (30,000)	0	10/8.11/18開催の研修会講師料として、松本政悦氏(横浜市総合リハビリテーションセンター作業療法士)
	謝金	7,500 (7,500)	7,500 (7,500)	0	スタッフ謝金、親子であそぼう会(のべ11名×500)・研修会(のべ4名×500)
	事務用品	3,000 (3,000)	743 (743)	-2,257	資料等の印刷をくれよんで実施、資料原稿等の印刷用紙に限られたため減額。用紙代(337円)および研修会お知らせ発送の封筒(406円)購入。
	通信費	8,000 (8,000)	1,640 (1,640)	-6,360	研修会、あそぼう会お知らせ、市内幼稚園保育園関係はこども家庭課より園長会等で配布したため減額。重複しない、過去の研修会参加者、市内子育て支援団体への発送切手代(82円切手×20枚)
	旅費・交通費	31,500 (31,500)	17,500 (17,500)	-14,000	合同勉強会500×2名×4回=4000、事業所体験利用(500×2名×5回)+(500×1名×2回)=6000、あそぼう会(500×4名×2回)+(500×3名×1回)=5500、研修会500×2名×2回=2000
	飲食費	5,000 (0)	0 (0)	-5,000	あそぼう会は午前のみで開催で昼食は不要となった。
	備品購入	120,000 (120,000)	65,016 (65,016)	-54,984	感覚遊具スイング購入
	保険料	0 ( )	3,532 (3,532)	+3,532	あそぼう会当日のみ傷害保険に加入したため。1000×3日、振込み手数料216×2回
	支出合計	C 205,000 (200,000)	D 125,931 (125,931)	D-C -79,069	
③	収支決算額 B 125,931 円 - D 125,931 円 = 0 円				【備考】

※支出額の( )内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	ひろげよう子育て支援の会	■団体 □行政
事業名	感覚統合療法普及事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	おもいきり体を動かし、楽しみながら必要な感覚を体験し遊ぶことで、子どもたちの発達を支援するという。感覚統合の考え方を広める目的を共有し事業をすすめることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	市は、事業所や保育所・幼稚園等への連絡や広報などで必要に応じて通常のチャンネルを活用し、会は、会員の活動可能な範囲で体験利用の一部サポートや勉強会研修会の企画や進行等、それぞれができることを連絡調整しながら行うことができた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	事業実施の打ち合わせや開催後のふりかえり等を、短時間でもできるだけ行い、相互の事業実施のための状況理解を深めるよう努力した。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	実施しながら感じた疑問点等を確認しあい、率直な話し合いをおこないながら、事業をすすめることができた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	感覚統合療法に必要な会場や遊具として市が所有する資源を活用することで、より多くの子どもたちや保護者が楽しく体験できる機会を広げることができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見



## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	こども家庭課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	感覚統合療法普及事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	こどもたちに楽しんでもらいながら、感覚統合や発達障がいについて普及していくという目的を、事業を通じて共有できた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	市は、連絡調整や広報・会場確保等の事務的な役割を、会は、ノウハウを生かした体験サポートや勉強会の企画立案などの役割を、それぞれができることを連絡調整しながら行うことができた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事業実施においては、準備段階から協議を行い、実施後においても、次回への改善点や発展性について意見交換を行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	疑問点等はその都度確認し合い、相互の状況を確認しながら実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	遊具の有効活用と、利用方法の普及という面で、団体のノウハウを活かしてもらうことで、勉強会に参加した事業所や体験会に参加した保護者により有意義な内容を伝えることができた。また、市職員が感覚統合のノウハウを学習する機会を得ることができた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	事業所の体験利用や親子の体験会、研修会を通じて感覚統合療法の意義や、体をたくさん動かして遊ぶことの大切さを伝えることができた。事業所の体験利用では、事業所職員に勉強会を通じて遊具の使い方などを学んでもらったこともあり、後半はサポートがなくても利用していただくことができた。また、研修会には幼稚園・保育所や事業所の職員が延100人以上参加し、発達障がい児が抱える感覚統合の問題と、感覚統合療法の基礎を学んでもらうことができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	感覚統合療法に有効な遊具であるスイングを購入することができ、これを活用して様々な遊び方を提案してもらうことができた。十分な効果が得られていると考える。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。（受益者からの評価がわかる場合）	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など あそぼう会の参加者アンケートでは、3回とも満足以上の回答をいただいた。研修会の参加者アンケートでは、半数以上の回答者から内容について満足以上の回答をいただいた。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	スペースや遊具など市が所有する資源を利用する機会を増やすことができた。
団体のメリット	会が単独で実施するより、市との協働事業という信頼を得ることができた。事業所、保育所、幼稚園等の職員や保護者に、会の活動を知らせることができた。
市のメリット	会員の感覚統合についての知識やスキルを共有し、事業を実施することができた。

## (4) その他、課題やその改善方法など

事業所の職員に対しては十分に普及啓発ができたが、一般向けの部分で親子での体験会でしか事業展開できなかった。次年度については、幼稚園・保育所の職員向けに勉強会や研修会を充実させていきたい。

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（ 提案型  提案型以外）
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

事業所の体験利用や合同勉強会は、市と各事業所の運営で実施継続可能であると考え、会としては、遊ぼう会をより多くの親子に広げることと、感覚統合理解のための講演会等の企画運営を中心に進めていきたい。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	ひろげよう子育て支援の会	担当課名	こども家庭課
事 業 名	感覚統合療法普及事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

各事業を実施するに当たっては、事前の準備や事後の反省等において様々な意見交換を行い、目的の共有や役割分担について、共通認識をもって実施することができた。

体験利用や勉強会等を通じて、参加した事業所の職員も感覚統合についての知識やスキルを高めることができ、各事業所における支援に取り入れている。また、市職員も同様に日々子どもへの支援や保護者からの相談に生かすことができている。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

体験利用や親子の体験会、研修会などを通じて、思い切り体を動かし、楽しみながら必要な感覚を体験して遊ぶことが子どもの発達を支援することにつながるということを、保護者や支援者など、多くの方に知っていただくことができた。

新たに購入した遊具「スイング」についても、体験利用や親子の体験会では人気の遊具となっており、団体のスタッフが有効な活用方法等を利用者に伝えることができている。

研修会や体験会の参加者アンケートでも良い評価を頂いている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

体験利用や勉強会に参加した事業所が、感覚統合療法をプログラムに取り入れている。また、研修会では、幼稚園や保育所の職員も多く参加しており、それぞれの現場において子どもたちへの支援につながっている。

また、団体・市ともに、それぞれの利点を相互に活用することで、活動の普及や知識やスキルの共有や獲得など様々な波及効果も出ている。

### (4) その他、課題やその改善方法など

サービス事業所の職員や利用児童などは、体験利用や勉強会を通じて十分に感覚統合療法の普及啓発を図ることができたが、幼稚園・保育所の職員や、一般の保護者・児童については、「親子であそぼう体験会」と研修会のみとなっており、回数・対象者数ともにまだ十分でないと考えている。

今後は、一般市民向けの研修会や、幼稚園・保育所職員を対象とした勉強会などにより、普及啓発の範囲を広げていきたい。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施（提案型 提案型以外） 休止または終了  
行政が単独で実施 団体が単独で実施  
その他（ ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

感覚統合療法の基礎知識や感覚遊具を参考とした遊び方について、この事業に触れた様々な立場の支援者に現場で実践してもらうことが、事業目的の発展につながる。

継続的に研修会などを実施していくため、参加者負担金を徴収することなどを検討している。

事業を通して、周囲から誤解されやすい感覚の問題を抱えた子どもたちへの理解を深めるために、より多くの大人や子供が体験し、学ぶ機会を広めてきた。

今後もいろいろな場面で、小さいころから思い切り体を動かし、好きな遊びを楽しむことの大切さを伝えてきたい。

市と団体で役割分担してもう1年事業を継続・定着させることを目指す。

団体では、研修会の参加者負担金の徴収等も行いたい。

# 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

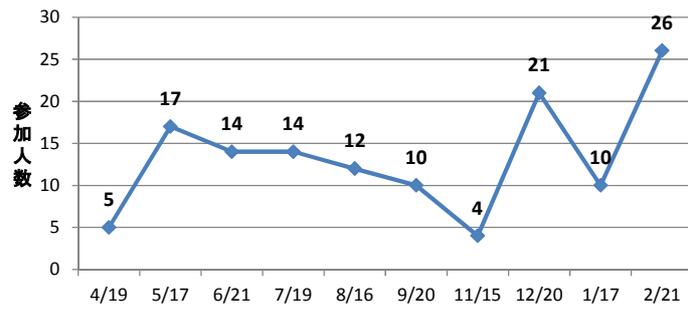
団体名	東海大学地域スポーツクラブ	
団体代表者	萩 裕美子	印
事業担当課名	スポーツ課	
事業担当課長	高橋 勇二	印

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	平塚市立小中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業		
事業開始年度	平成26年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	230,542 円	内 訳	市の支出 200,000 円 ----- 団体の支出等 30,542 円
事業の概要	市民の皆様が気軽にスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、小中学校の運動場、体育館を利用して、ひとりでも利用できる個人利用の日を設けています。東海大学地域スポーツクラブの管理者が、初心者に対する助言・けがの応急処置・用具の管理等を行います。		
具体的な実施内容	学校名	日時	種目
	金目中学校体育館 みずほ小学校体育館	第2・4月曜日 19:00～21:00 第3土曜日 13:00～16:00	囲碁ボール、バスケットボール、 バドミントン等 ショートテニス、卓球、バドミントン等
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。	<p style="text-align: center;"><b>金目中学校(第2・4月曜日)</b></p> <p style="text-align: center;">合計：のべ 416 人</p>		

### みずほ小学校(第3土曜日)



合計：のべ 133 人

両校合計：のべ 549 人

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

## 平成 26 年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	200,000	200,000		
	団体の支出	31,500	30,542	-958	交通費が減ったため
	事業収入				
	収入合計	A 231,500	B 230,542	B-A -958	
② 支 出	謝金(有償ボランティア)	151,200 ( 151,200)	144,000 ( 144,000)	-7,200	学校の都合により実施回数が減ったため。 800円×3時間×60人 別紙：領収書番号 1～60
	交通費	31,500 ( 0)	30,000 ( 0)	-1,500	学校の都合により実施回数が減ったため。 往復 500円×60人 公共交通機関利用のため領収書なし
	プログラム諸費	38,800 ( 38,800)	49,241 ( 49,241)	+10,441	参加者数が予想を上回ったため追加した。 卓球用ネット、ショートテニス一式、バドミントンラケット・シャトル等 別紙：領収書番号 61～67
	事務費	10,000 ( 10,000)	7,301 ( 6,759)	-2,699	コピー用紙、ペン等 別紙：領収書番号 68
		( )	( )		
		( )	( )		
		( )	( )		
	支出合計	C 231,500 ( 200,000)	D 230,542 ( 200,000)	D-C -958	
③	収支決算額 B 230,542円 - D 230,542円 = 0円				【備考】

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	東海大学地域スポーツクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民にスポーツをする機会や場所を提供できたと考える。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	開催初期は学生のみでの開放に不安があり、市の方々に手伝っていただいたが、来年度は保険に入ることや緊急連絡網を作成したことにより、今後は学生のみでの開放が可能である。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	開放時に様々な意見を交換できたと考える。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	お互いの意見を取り入れ、活動をできたと考える。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	当団体のみでは、広報能力がなく、ここまで人を集めることは出来なかったと考える。 また、当団体が日ごろ学習していることを活かすことができたと考える。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	開催日数 30 回、のべ参加人数 300 人を目標に対し、日数は 29 回と 1 回少なかったものの、のべ参加人数 549 人と目標を達成することができた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	4	当団体が購入したスポーツ用品を使い、普段やることのないスポーツを参加者が行うなど、様々なスポーツに触れる機会を提供できた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	5	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など参加者のアンケートによると、満足と答えてくださった方がほぼ全員だった。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	団体に所属しない個人が学校開放に気軽に参加できた。また、競技者同士のコミュニティの場としての役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場となった。
団体のメリット	学生が日々学んでいる成果を試すことのできる場となった。さらに、大学の地域貢献としての意味もあり、東海大学のことを市民が理解し、身近に感じてもらうことができた。
市のメリット	東海大学(主に体育学部)との提携事業により、市民により専門性の高いスポーツ機会を提供することができた。

## (4) その他、課題やその改善方法など

来年度は保険に加入することで当団体のみでの開放を行えるようにする。  
 人員不足に関しては、代表のゼミの学生や学科の学生を積極的に参加させる。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 (

休止または終了

団体が単独で実施

)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

当団体の学生が普段学んでいることをさらに活かせるようなプログラムの制作や継続的に行える仕組み作りを行う。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小中学校運動場、体育館個人利用促進事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民が気軽にスポーツを楽しむ機会を充実させることができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	4	当初、学生のみでの運営に不安があるということで、市職員が毎回立ち会っていた。 平成27年度からは施設所有者責任者賠償責任保険の加入や管理人の普通救命講習等への参加を勧めていき、安全に配慮して行っていく。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	事業実施時に意見を出し合い情報共有を行った。また、必要に応じて打ち合わせを行った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	双方で協議したうえで進めており、役割分担を踏まえ、団体と行政が対等な立場を尊重しながら事業を実施した。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	学生らが実施することでより市民の目線に近い運営が行えた。また、夜間や土曜日に実施することや体育学部のノウハウを活かした指導を行うことができた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	成果目標値 実施回数30回・延べ参加者数300人に対して、実施回数29回・延べ参加者数549人であり、十分達成できた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	費用対効果が見えづらい事業ではあるが、利用者へのアンケート調査によれば、個人開放に参加したことで運動やスポーツをする回数が増えた人が最も多かった。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 利用者へのアンケート調査によれば、満足と答えた人が最も多かった。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	団体に所属しない個人が学校開放に気軽に参加できた。 参加者同士のコミュニケーションが図られ、コミュニティの醸成に寄与した。
団体のメリット	学生が日々学んでいる成果を試すことができた。 大学の地域貢献が図られた。
市のメリット	市民のスポーツに参加する意欲が高まった。 ひとりでも気軽にスポーツをする機会を提供できた。

## (4) その他、課題やその改善方法など

- ・学生の卒業問題等による人員の確保 ⇒ 学科やゼミで声かけ、新入生の勧誘
- ・管理人の賠償責任 ⇒ 平成27年度より保険に加入

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・授業やゼミの一部として関わってもらえるような仕組みづくりを検討し、自立を目指す。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	東海大学地域スポーツクラブ	担当課名	スポーツ課
事業名	平塚市立小中学校運動場、体育館個人利用促進事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・目的共有については、事前に他市の実施状況等を調べていたので、すぐに共有することができた。
- ・役割分担については、施設所有者である学校側が学生のみでの運営に不安を感じていたようなので、当初は市職員が毎回立ち会っており行政側の負担が大きかった。
- ・行政が広報や学校との調整をやってくれたのは大きい。
- ・十分な協議については、双方で協議したうえで進めており、役割分担を踏まえ、団体と行政が対等な立場を尊重しながら事業を実施できた。
- ・相互評価や波及効果については、学生らが実施することでより市民の目線に近い運営が行えた。また、夜間や土曜日に実施することや体育学部のノウハウを活かした指導を行うことができた。
- ・団体のみでは、広報ができず、これだけの人は集まらなかっただろう。また、学校との調整をやってくれなければ学校が貸してくれなかったかもしれない。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・目的・目標の達成については、成果目標値に対して、参加者数が大幅に上回ったことから十分に達成できた。
- ・費用対効果については、利用者へのアンケート調査によれば、個人開放に参加したことで運動やスポーツをする回数が増えた人が最も多かったことや、ショートテニス、囲碁ボール、バウンドテニスといったニュースポーツを参加者が体験できたことから、経費に見合うサービスの提供が概ねできた。
- ・受益者サービスについては、平日夜間は中高生の利用者が多くなってしまったので、高齢者やファミリーの参加を促すために、平成27年度は土曜日の個人開放日を増やす。



## 平成26年度実施 協働事業報告書

(宛先)  
平塚市長

団体名	認定 NPO 法人 湘南ふじさわシニアネット	
団体代表者	小林信武	印
事業担当課名	教育委員会社会教育部 スポーツ課	
事業担当課長	高橋 勇二	印

平成26年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

## 記

事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		
事業開始年度	平成26年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	1,134,000 円	内訳	市の支出 1,134,000 円 ----- 団体の支出等 0 円
事業の概要	本事業は、市民の健康増進を更に進めるため、スポーツを希望する市民が「いつでも、どこでも、手軽に」市内のスポーツに関する情報（団体情報や、開催イベント等）を得られるよう、ワンストップの総合的なスポーツ情報の発信・提供サイトを構築し、運営する事業である。		
具体的な実施内容	<p>1. ポータルサイトの第Ⅰ期開発</p> <p>1) 設計：平成26年4月～7月</p> <p>2) 開発：平成26年8月～12月</p> <p>3) テスト：平成27年1月～3月</p> <p>2. スポーツ関係団体との意見交流会、手順説明会の開催</p> <p>1) ポータルサイトの開発計画の説明会（8/30、38団体53名）</p> <p>2) ポータルサイトの具体的説明会（1/30、37団体46名）</p> <p>3) 記事投稿手順の説明会（2/12、3/7、2回計39団体48名）</p> <p>4) テスト参加団体 13団体</p> <p>3. スポーツ団体情報の掲載と発信開始（4/1～）</p> <p>1) スポーツ5団体：体協（27）、体振（23）、スポ連合（3）、レク連盟（5）、スポ協議会（1）、市民団体（21） 計89団体</p> <p>2) 施設情報（32ヶ所）</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以上

## 平成26年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	1,134,000	1,134,000	0	
	団体の支出/事業収入	0	0	0	
	収入合計	<b>A</b> 1,134,000	<b>B</b> 1,134,000	<b>B-A</b> 0	
	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
② 支 出	設計) ①全体設計※ ※○項番は予算書の項番対応	56,000 (56,000)	159,611 (159,611)	103,611	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4-7月：設計時間 316.5 H (@504.3 円)</li> <li>・6月新規 11 件要望あり、新たな検討時間の増加、かつ期間を 1 ヶ月延期。</li> </ul>
	開発) ②各ページ制作 ③団体紹介DB ④イベント/仕組み ⑥基本システム構築	743,424 (743,424)	477,747 (477,747)	△265,677	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8-12月：開発時間 929.5 H (@504.3 円) + 外注費 9,000 円</li> <li>・対象団体 100→80 団体 (予算 20% 削減対策)、</li> <li>・テンプレート開発しデータ投入の効率化。 団体向け説明会 2 回実施。</li> </ul>
	テスト) ④マニュアル作成 ⑤アクセシビリティ	47,344 (47,344)	285,155 (285,155)	237,811	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1-3月：テスト時間 464.5 H (@588.6 円) + 外注費 11,750 円</li> <li>・大規模テストのため時間増、公開テスト実施、操作講習会 3 回実施。</li> </ul>
	⑦定例打合せ (市、団体)	115,200 (115,200)	0 (0)	△115,200	・上記 設計～テスト工程に含む
	⑧事務用品	19,972 (19,972)	3,758 (3,758)	△16,214	雑費 1,258 円、画像借用 2,500 円
	⑨旅費・交通費	50,060 (50,060)	74,134 (74,134)	24,074	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市と定例会は全 15 回 (参加人数から 13 回を藤沢で行う)。</li> <li>・団体説明会等計 +5 回増。パートナ会議 2 回。パートナ交通費 3,748 円</li> </ul>
	⑩賃貸	32,400 (32,400)	24,696 (24,696)	△7,704	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーバーレンタル (年間)、ドメイン取得費</li> <li>・規模に応じたレンタルサーバー 2 台を選定。</li> </ul>
	⑪ソフト費	21,600 (21,600)	24,899 (24,899)	3,299	外部ソフト購入 (テンプレート、カスタムプロパティほか 5 本)
	⑫管理費	48,000 (48,000)	84,000 (84,000)	36,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えのぼ exp 支援とプロジェクト管理は、設計～テスト工程に含む。</li> <li>・消費税 84,000 円を一括計上</li> </ul>
	支出合計	<b>C</b> 1,134,000 (1,134,000)	<b>D</b> 1,134,000 (1,134,000)	<b>D-C</b> 0	
③	<b>収支決算額 B 1,134,000 円 - D 1,134,000 円 = 0 円</b>				<b>【備考】</b> 上記内の 2 つの単価は、H26 年度 SFS 決算日 (12 月) と、H26 年度平塚市の決算日 (3 月) のそれぞれに合わせた本事業決算の単価です。

※支出額の ( ) 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、**事業に関する収支すべて**を記載してください。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	認定 NPO 法人 湘南ふじさわシニアネット	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
① 事業の「目的は共有」できましたか。	5	市内スポーツ情報を発信するサイトの構築という目的は、早期に参考サイトを取り決めるなどで、メンバー内および市とも十分に共有できた。
② 事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	今年度は「システムの開発・テスト」という明確な作業であったため、互いの役割がはっきりし、その役割分担は十分果たせた。
③ 「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	定例会の実施（原則月1回、年間15回）やメールでのやり取りで十分に協議が行えた。 定例会13回は藤沢での打合せにしてもらったことから、開発担当者5名ほぼ全員が会議に参加でき、意思疎通も円滑であった。
④ 「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	事業の目的を十分に共有できたので、協議の経過、結果ともに互いに立場を尊重できたと感じる。
⑤ それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	スポーツ団体からの情報収集など対外的な対応と意見吸収は市が担当し、システム開発とその改善は弊団体が行うことで相互・波及効果がうまく発揮できた。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
① 事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	ポータルシステムとして、当初設定した内容は達成できたと考えている。それ以上の機能を追加仕様で開発した。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	費用対効果からは、弊団体としては最大限の努力をした。上記のように、契約時以降に追加要望があり、一部それら機能の追加開発を行った。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 事業説明会(2回)での団体アンケートや、操作教育時の受講者の意見からは、評価する回答が多い。但し、事業の性格上単年度で終わるものではなく、継続的・発展的に努力してゆく必要がある。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	スポーツ5団体(66団体)+市民団体13団体の情報と、施設(32ヶ所)の情報が、「どこからでも」「いつでも」参照・検索できるようになった。
団体のメリット	スマホでも参照できる新技術を取り込んだサイトが開発できた。 また、今後大規模サイトの運用のノウハウを蓄積できる見通しが立った。
市のメリット	行政の縦割りの情報提供(施設、イベント)を包含するポータル情報サイトができ、これらの情報を市民に無理なく伝達しやすくなった。

## (4) その他、課題やその改善方法など

継続年の事業と予算申請の提出時期に余裕が欲しい。

例) H26年の事業開始(4月)直後に、H27年の事業申請(5月)をしなければならない。

特に予算立案にかなりの見積り困難が発生する。

将来にわたる安定した運転資金を、いかに確保していくかを双方で具体策を考えていきたい。

## (5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )

行政が単独で実施

その他 ( )

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

今回のイベントとしてのスポーツ情報の発信を、今後さらに市民の健康増進に繋がる総合サイトへの発展を図る。(例、主婦や高齢者の運動への誘いとかが、優しい運動処方などにより市民参加率を向上させる) また、企業の健保活動からの寄付や民間フィットネス施設などの広告収入等で自主財源を確保し、運用基盤の強化を図る。

## A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業	

## ※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

## (1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	4	当初は、ポータルサイトのイメージを共有することができず、行政と市民団体との目線の違いから、事業の目的を共有することが難しかったが、綿密な打ち合わせや情報共有を行うことにより、事業の目的の共有が出来る様になってきた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	協働団体がもつサイト構築のノウハウや行政がもつスポーツ関係団体とのつながりや信頼性、組織力などを活かし適正な役割分担が行えた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	毎月1回の定例会の他、必要に応じて打ち合わせを行っている。また、メールのやり取りを随時行い、メンバー間の情報共有を行っている。 濃密なやり取りを行うことで、双方の特性の理解を深めている。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4	事業を実施する際には、双方で協議した上で進めており、役割分担を踏まえた上で、行政と市民団体が対等な立場を尊重しながら事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4	相互の特性を活かした協働事業の主旨のとおり、事業が進んでおり、協働団体が持つサイト構築のノウハウだけではなく、行政が一方向的に作成するサイトにはない市民目線を尊重したサイトが構築されつつある。 また、行政が持つスポーツ団体との繋がりや知識を活かすことにより、利用者へのきめ細かいサポートが来ている。

評価の流れ

**A : 「自己」評価シート**

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

## (2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	多くのスポーツ団、イベント、施設情報を掲載するのみならず、スポーツ団体自らがイベント等の記事投稿ができる機能をつけるなど、行政が一方向的に情報発信するだけではない、市民参加型のサイトを構築することができ、スポーツ情報を一元化する目的は達成できている。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	市からの負担金が少ない中で、協働団体が多くのスポーツ情報の掲載や機能の整備をしており、とても高い費用対効果を得られた。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など 平成26年度はサイトの構築期間であり、受益者のサイト運用後の満足度の確認は平成27年度からとなる。 説明会で実施したアンケートなどでは、参加者より良い評価を得ている。

## (3) 実施したメリット

市民のメリット	多くのスポーツ情報の掲示やスポーツ団体がイベント等の記事投稿機能を整備することにより、関心のあるスポーツ情報を「いつでも、どこでも、手軽に」得ることができるようになった。
団体のメリット	市と協働でサイトを構築することにより、市のスポーツ団体との繋がりや信頼性、組織力を活用したサイトづくりができる。
市のメリット	協働団体が持つポータルサイトを構築するノウハウを活かすことができるだけでなく、市民目線のサイトを臨機応変に構築することができる。

## (4) その他、課題やその改善方法など

今後、掲載するスポーツ団体情報が増えていく中で、スポーツ団体へのサポート体制をどう維持していくかが問題となる。平塚市内の市民活動団体である湘南 NPO サポートセンターの協力を得ながら、継続的なスポーツ団体へのサポート体制の構築を目指す。

## (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (  提案型  提案型以外 )
  休止または終了  
 行政が単独で実施
  団体が単独で実施  
 その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

## B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	認定NPO法人 湘南ふじさわシニアネット	担当課名	スポーツ課
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		

### (1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・年度当初は、サイトのイメージの共有が困難であったが、モデルサイトの「仙台スポーツ情報ナビ」を参考とし、文章だけではなく具体的なサイト画面（案）を双方で確認することにより、次第にイメージを共有することが出来た。
- ・市からの具体的な機能の要望が6月と遅かったため、サイト構築機能の開発を年度内にまとめるのが難しかった。
- ・事業を実施する際には、必ず相互の意見を聞いており、対等な立場で協働事業を行えた。
- ・協働団体がサイトの機能について分かりやすく丁寧に説明することにより、市もサイト機能の知識を得る事ができた。
- ・事業説明会では、参加者より本サイトに否定的な意見も出る中で、その意見に対して真摯に対応することにより、本サイトの意義を理解して貰うことが出来た。
- ・平塚市内の団体である湘南NPOサポートセンターに協力を得ることで、地元の団体からもサイト利用者へ充実したフォローアップができた。

### (2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・サイトデザインの構成を決定するのに時間がかかったが、具体的なサイト画面（案）を確認しながら意見を出し合うことにより、双方が納得するサイトデザインとなった。
- ・利用者の意見をサイトに反映させるため、スポーツ団体に要望を聴取したが、サイトに反映させる作業が大変であった。
- ・サイトを構築する上で、十分な費用が確保することができなかつた。サイト公開に向けて様々な機能のチェック作業に要する費用が、当初の予算見積りよりも増大してしまった。
- ・利用者からの質問について、双方の窓口を1本化することにより情報の流れが整備され、遅滞のない回答ができた。
- ・今後利用者が増えるため、利用者に継続的なサポートが出来るような体制の構築が必要となる。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

### (3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・協働団体のポータルサイト構築のノウハウのみならず、市民目線からのサイト構築ができ、良かった。(市のみのサイト構築だと、関係団体のみの意見を強く反映したものになる可能性がある。)
- ・平塚市以外の行政とも協働で事業を行ってきたが、他市と比べ平塚市は意見を聞き入れる体制を作ってくれたため、意見を出しやすく、円滑に事業を実施することができた。
- ・行政側の一方的な情報発信ではない、利用者参加型のサイト(利用者が記事の編集、投稿をできる)を構築することができた。
- ・一方的ではない双方向性のサイトを引き続き目指して行く。具体的には、市民が自分で作成した記事や写真などを掲載できる市民スポーツギャラリーなどを考えている。

### (4) その他、課題やその改善方法など

- ・今後は、スポーツの仕方、基礎など、スポーツ周辺情報を掲載していきたい。  
(例：スポーツによる健康維持のための方策などの解説記事)
- ・競技者向けの情報のみならず、シニア、勤労者、女性、子供、様々な市民への情報提供を検討する。
- ・市民記者による観戦記事、写真の投稿などを検討し、市民参加型のサイト作りを目指し、イラスト等の掲載時の取り決めの整備をおこなう。
- ・東海大学、神奈川大学との連携を図る。
- ・ウェブアクセシビリティ AA 準拠を目標としていたが、検証ツール「HAREL」の公開終了などによりクリアが出来なかった。総務省で開発した「miCheker」で早期確認を行うべきであった。

### (5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (■提案型 □提案型以外) □休止または終了  
□行政が単独で実施 □団体が単独で実施  
□その他 ( )

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・事業の性格上、単年度で終わらせるのではなく、持続的展開が必要である。このため寄付金や広告等によりサイト運用財源を確保し、市民参画型サイトへと発展させて行く。
- ・今後、利用者が増えていく中で、利用者へ充実したサポートをするための体制作りが必要となる。